

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの評価項目も、おおむね達成できているという評価だった。次年度は個々の課題について、さらに取り組みを深めたい。</li> <li>キャリア教育に関しては、卒業学年の進路決定も100%を達成できた。昨年度断念した2年生のインターンシップも今年度は実施でき、進路指導の取り組みは順調に遂行できた。</li> <li>地域連携においては、各系列で活発に取り組んできたが、今年度は新たな連携授業も実施できた。情報発信、広報の効果も上がっており、次年度はさらに地域を巻き込んだ取り組みを行いたい。</li> <li>美化活動、環境整備など生徒を主体とした取り組みが実施できた。次年度はさらに生徒が主体的に関わる取り組みを増やしていきたい。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	「アジアに目を向け、東松浦の資源を活用した地元との協働で、地域社会に貢献する人材を育成する。」
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>学校スローガン『青翔魂！昨日の自分を超えていけ！』を合言葉に、</p> <p>①地域に愛され、地域に信頼される学校にする。      ②志を持ち、夢の実現のためにベストを尽くす。      ③失敗を恐れずチャレンジする。      ④自分と他人を愛する。      ⑤綺麗で安心な学校をみんなで作る。</p> <p>を、生徒と教師がともに目指し、元気で明るい学校をつくる。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○基礎学力の向上のため、継続的な学習の習慣をつける	○朝の青翔タイム(学び直しの時間)を継続的に行うなかで、基礎的な学力の定着を目指す。 ○青翔タイムの時間を大事に行うためにも、遅刻の数を20%減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で、生徒の現状に合わせた共通の取り組みを行い、年間を通して一貫した指導を行う。</li> <li>青翔タイムが始まる前に職員が早めに教室に行き、8時30分より落ち着いた雰囲気の中で青翔タイムをスタートできるようにする。</li> <li>組織的な遅刻指導を行い、保護者と連携して指導にあたる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の輪番による登校指導などの成果もあり、チャイムと同時に落ち着いた雰囲気の中で青翔タイムの取り組みができています。</li> <li>取り組む内容についても生徒の実情に合わせた内容を検討し実施できています。</li> <li>遅刻者が固定化されてきた感がある。家庭との連携も固りながら粘り強く指導していきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が落ち着いた雰囲気の中で1日のスタートができています。</li> <li>「学び直し」を趣旨としているが、物足りなさを感じている生徒もいる。習熟度別などの内容の検討が今後の課題である。</li> <li>遅刻者が固定しており、継続指導を行っているものなかなか延べ数の減少に至らなかった。基本的な生活習慣を整えていくことが、基礎学力の向上の基盤であるため、引き続き家庭での協力を求めていきたい。</li> </ul>
	○ICT利活用教育の実施	○社会に貢献する人材の基礎となる能力の育成のため、1年次生の全商ビジネス文書実務検定3級の合格者を60%以上にする。 ○授業の効率化や生徒への多角的支援に向け、ICTを利活用して授業を実施している教員を50%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報1」の授業等を活用して、タイピングや文書作成の練習パソコンの知識を学ぶ機会を設ける。</li> <li>ICT支援員と協力しながら、職員の教材作成等をバックアップする。他校で行われている取り組みや情報を共有し、より効果的なICT利活用教育を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次生の全商ビジネス文書実務検定3級の合格に向け、生徒に向けてタイピングや文書作成などの技術を習得させることができています。</li> <li>教材作成など、ICTに関する要望や問題に柔軟に対応することができている。</li> <li>アンケート実施の結果、授業中にICTを利活用している教員は100%であった。</li> <li>他校の取り組みやICTを用いた公開授業の案内については、プロジェクト推進室の情報を中心に共有しており、これからも推進していきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次生の全商ビジネス文書実務検定3級の合格率は約40%であった。今後は学習用PCの使用を中心に生徒のICT利活用能力を育成していきたい。</li> <li>ICTを利活用して授業を実施している教員は、アンケート実施の結果100%であった。また、中間評価時に比べて電子黒板や学習用PCについて多くの活用例が見られたため、教員のICT利活用能力が全体的に向上し、授業の効率化や生徒への多角的支援も十分に行われたと言える。</li> </ul>
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「豊かな心を身に付ける教育活動が行われている」と回答する割合を80%以上(生徒・保護者・職員)にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>HR活動では、本校の生徒に理解しやすい内容の講話などを行い、振り返りの機会も設ける。</li> <li>日々の授業の中でも、生徒に豊かな心を身に付けるために話をするなど、職員が生徒のためになる情報を常に意識する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>HR活動では様々な講話を設定することができた。また、クラス内での講話内容の振り返りの時間を設けてアンケート記入や合意形成などを通して心の教育を図ることができた。</li> <li>生徒との対話を大切にしている授業や諸活動も心掛けた。またクラスでは個人面談等を行い、アドバイスを繰り返しながら豊かな心の醸成に取り組んだ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年に引き続き、HR活動を中心に様々な講話を設定できた。命にかかわることや情報モラルなどの内容も含め、身近な問題から考える機会を設けることができた。</li> <li>それぞれの教科指導の中でも、生徒との対話を多くしながら、賞賛と承認を繰り返し豊かな心の醸成に取り組むことができた。</li> </ul>
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめの早期発見に努め、「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」学校づくりが行われている」と回答した教員が90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に3回以上、学校生活アンケートを実施して、いじめの早期発見に努める。</li> <li>全校集会や担任等を通して、いじめ問題やSNS・ライン等の適切な利用について指導する。</li> <li>いじめと思われる場面を発見した場合、学年主任・担任等に報告し、情報を共有し、早期に対応する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月に実施した学校生活アンケートでは、いじめと思われる記述はなかった。</li> <li>SNSの適切な利用については、折に触れて、全校集会で注意喚起した。全生徒が正しく理解しているかどうかは不明である。</li> <li>生徒の異変を見逃さないように、観察や声かけを意識している。担任団と情報交換をして、いじめの早期発見に努めている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月に実施した学校生活アンケートでは、いじめと思われる記述が見られなかった。</li> <li>SNSの適切な利用については、折に触れて、HR活動や学年集会で注意喚起した。</li> <li>生徒の異変に気づくことができるように、日々の観察や声かけを意識している。担任団と情報交換をして、いじめの早期発見に努めている。</li> </ul>
	○自己肯定感の醸成	○学校評価アンケートで「部活動や生徒会活動など活発である」と回答する生徒を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3日間の部活動体験入部を実施し、部活動加入率を上げる。</li> <li>各部活動の試合や大会の日程をホールに掲示し、全校生徒の目に触れるようにする。入賞した場合は全校表彰をする。</li> <li>生徒会活動の一環として挨拶運動や校内美化活動、募金活動などを定期的に行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験入部を実施したが、部活動加入率は60%を下回っている。</li> <li>部活動加入者が減少し表彰の回数も少なくなった。その分、部活動生徒の活躍を題材にアナウンスし、全校表彰を実施していきたい。</li> <li>挨拶運動(1回)、募金運動(2回)を実施した。後期は回数をもっと増やして、生徒会活動を充実させたい。また、生徒総会で提案された教室を美しく使うためのルールを廊下等に掲示し、環境美化に努めている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の部活動加入率は60%であった。</li> <li>陸上部や美術部などの活躍が目立った。しかし、そのアピールができなかった。今後はSNS等を活用しながら部活動生徒の活躍を発信していきたい。</li> <li>後期になると挨拶運動が一度もできなかった。美化ポスターの掲示や募金運動等は実施したが、クラスによっては教室の環境美化を維持できず、ロッカー等の整理整頓もされていない状況だった。次年度に向けて生徒会の取組を形式化・マンネリ化させないようにもって全校生徒に向けて趣旨の理解を図る必要がある。</li> </ul>
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を育成していくにあたり、特に朝食をきちんと摂ることが高校生自身の健康にかかわりがあることを知らせ、朝食摂取率の割合を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃のHRでの声掛け、家庭科の授業、保健だよりや食育だより、青翔ニュースなどをとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高め、行動できるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月初期の食生活実態調査では朝食を毎日とっている生徒は48%という衝撃的な割合だったこともあり、授業では折に触れ朝食の意味、栄養、健康について必要性を話す機会を増やした。</li> <li>3年生の選択授業においては、各自に他の生徒向けの食育だよりを製作して掲示準備をしているところである。テーマの設定や取り組み方を見ていると意識の高まりを感じることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>フードデザイン選択者による「食育だより」は生徒目線での情報提供や視点を交えた提案方をしたものがあり、食育に対する生徒の意識を高めるのに大変意義があったと思う。来年度も継続していきたい。</li> <li>朝食摂取率を高めるための具体的な行動を起こしていきたい。簡単なことではないが、おにぎりの配布や味噌玉作りの講習会などを企画したい。</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各担当分掌や係で業務や会議の縮減を図る。</li> <li>定時退勤日や確実に実践し、職員一人一人が日常業務におけるタイムマネジメントを行い、業務改善の意識を高める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業や会議時間の縮減に関して呼びかけを行うことで、効率的に業務を進める意識が高まった。</li> <li>時間外業務時間の平均は、前年度、全前年度を下回る傾向にある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前と比較し、やや会議等の削減はできているものの、大きな削減にはつながらない。</li> <li>休暇等の取得率はやや上昇し、学校業務と生活のバランスをとる機運は高まっているようだ。</li> <li>時間外業務時間の平均は、昨年度を下回っている。</li> </ul>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○キャリア教育・進路指導	◎キャリア教育の充実による進路意識の向上	○1、2年生は、キャリア教育に関する年度末の調査で「働くことの意義について考えることができた」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 ○3年生は、進路決定率を100%とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「キャリア教育支援事業」や業者、地域等の力を活用し、総合学科に特化した内容の講習やガイダンスを実施する。</li> <li>面接、特課、個人指導等様々な機会を通じ生徒の進路希望や進路適性について理解を深め、職員間での情報共有を密に行い、効果的な進路指導につなげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「キャリア教育支援事業」は情報ビジネス系列の商品開発に関する講習会で実施済みで今後、社会福祉、自然科学の各系列で実施予定である。</li> <li>インターンシップ発表会や後期実施予定の校内の進路ガイダンスやそれに伴う事前事後指導を通じ、更なる進路意識の向上を図りたい。</li> <li>3年生の就職決定率は現在65%程度である。進学は1月以降にほとんどの結果が判明する。引き続き学年団と連携し進路協会の全員決定を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍のため「キャリア教育支援事業」で一部計画を変更して実施する事業があった。</li> <li>就職進路に関わる指導やインターンシップ、企業訪問、上級学校訪問、校内外での進路ガイダンス等を通じ、自己のキャリア形成の意識が高まり、年度末の調査で働くことの意義について考えることができた」と回答する生徒の割合が全学年で80%以上となった。</li> <li>3年生の進路決定率が卒業時点で見れば100%に届かなかった。年度末までには達成できるように継続して該当生徒に指導を行いたい。</li> </ul>
★SAGAコラボレーション・スクールの推進	★地域との連携(地域と連携した教育活動と広報活動の充実)	○生徒が地域のニーズを学び、地域のために活動する経験を3年間で100%にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各系列や部活動において商品開発など既存の活動をより充実させ、新聞やテレビなどメディアにも取り上げられた。</li> <li>地域の方々や中学生に青翔の活動を伝える工夫(学校HP、学校パンフレット、青翔ニュース、学校説明会)を行う。</li> <li>地域のニーズを学び、地域のために解決策を考える中で、生徒たちの成長を総合学科発表会で報告する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各系列の特色ある活動や商品開発など既存の活動をより充実させ、新聞やテレビなどメディアにも取り上げられた。</li> <li>地域の方々や中学生に青翔の活動を伝える工夫(学校HP、学校パンフレット、青翔ニュース、インスタ)に役割分担して取り組むことができた。</li> <li>地域のニーズを学び、地域のために解決策を考える中で、生徒たちが成長する姿を総合学科発表会で報告するために現在活動中である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々の協力を受けて、各系列の特色ある活動や商品開発など既存の活動をより充実させることができた。新聞やテレビなどメディアにも取り上げられた。</li> <li>HP、パンフレット、青翔ニュースを通じて青翔の活動を伝える工夫を行った。</li> <li>地域のニーズを学び、地域のために解決策を考える中で、生徒たちの成長を、町民会館での「総合学科発表会」で伝えることができた。</li> <li>地域での様々な活動に積極的に取り組む生徒が少しずつ増えてきた。</li> </ul>
○環境整備と美化	○綺麗で安心な健康づくり	○校内が快適な環境となるよう整備点検に努め、ゴミの持ち帰りや分別をはじめ校内環境美化や整理整頓に取り組んだ生徒の割合を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期安全点検を隔月で実施する。</li> <li>各クラス美化係による清掃活動や美化啓発物作成などを実施する。</li> <li>さわやか清掃活動(校内外ボランティア活動)を前・後期各1回実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内安全点検を2月に1回実施し、施設設備の安全点検と担当分掌と連携し、点検結果に基づく危険箇所の修理・修繕、事故防止のための安全管理を徹底した。</li> <li>各クラス美化係による校内の重点箇所の清掃を実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートでごみの持ち帰り、環境美化等「綺麗で安心な教育環境を作っている」と答えた保護者・職員の割合は80%に達することができた。生徒は64.4%だったので、校内美化に取り組んだ箇所や内容を生徒に紹介するなど美化係の活動に取り入れていきたい。</li> <li>後期のさわやか清掃活動を職員・生徒協力のもと計画どおりに実施できた。</li> </ul>

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり(高等学校のみ)

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの評価項目も、おおむね達成できているという評価だった。次年度は「十分達成できている」という評価ができるようそれぞれの具体的取組について精査したい。</li> <li>キャリア教育に関しては、卒業学年の進路決定率が100%を達成できなかった。次年度は早い段階で就職決定100%を目指すとともに進学指導体制の充実を図りたい。</li> <li>地域連携においては、新たな連携授業も実施できた。情報発信、広報の効果も上がっており、全国募集に向けて次年度はさらに地域を巻き込んだ取り組みを行いたい。</li> <li>美化活動、環境整備など生徒を主体とした取り組みが実施できた。次年度はさらに生徒が主体的に関わる取り組みを増やしていきたい。</li> </ul>
----------------	---